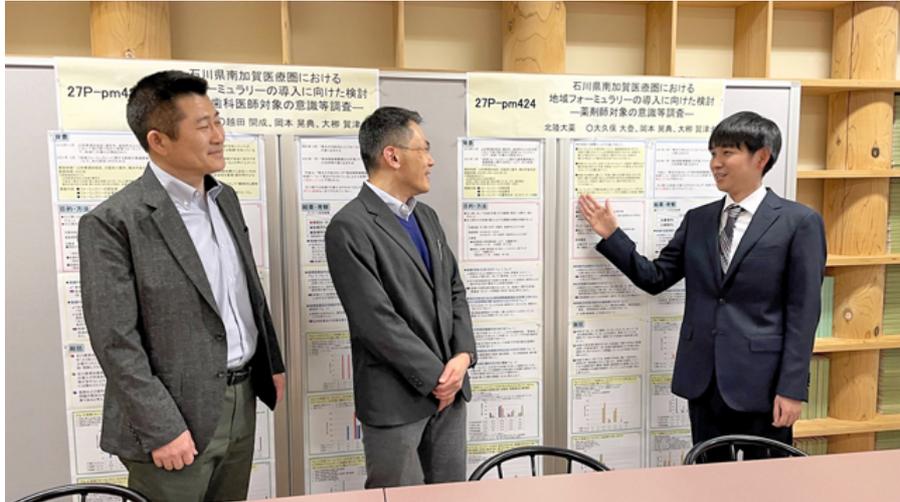


## 地域フォーミュラリ、未検討地域の認知度まだまだ 石川・南加賀、管薬の過半数「全く知らず」

2025/4/21 12:51



調査をまとめた大久保さん(右)と大柳賀津夫教授(左)、岡本晃典准教授(中)

北陸大薬学部(金沢市)の研究グループが、石川県内の南加賀医療圏で地域フォーミュラリ(地域F)の認知度を調べたところ、薬局の管理薬剤師の過半数が「全く知らない」と回答した。診療所の医師では8割に上った。同医療圏のように、導入の検討もしていない地域では地域F自体の認知度がまだまだ低い状況が浮かんだ。

調査は2024年5月と9月、南加賀医療圏を構成する小松、加賀、能美3市と川北町にある、薬局の管理薬剤師102人にアンケート。55人から回答があり、回収率は53.9%だった。

地域Fの認知度を4段階で尋ねたところ、「全く知らない(名称も聞いたことがない)」と回答した薬局の管理薬剤師は54.5%だった。▽聞いたことはあるがよく分からない(名称は知っている) = 34.5% ▽少し知っている(ある程度理解している) = 9.1% ▽よく知っている(理解している) = 1.8%—だった。

病院の薬剤部長にも同様のアンケートを実施。こちらは「全く知らない」は0人で、▽聞いたことはあるがよく分からない = 33.3% ▽少し知っている = 50.0% ▽よく知っている = 16.7%—だった。また、同医療圏内で外来診療に従事している医師も「全く知らない」との回答が、▽病院医師・歯科医師 = 70.0% ▽診療所医師 = 79.5% ▽診療所歯科医師86.2%—に上った。

厚生労働科学研究の一環で、2020年度に実施された地域Fに関する薬局薬剤師の意識調査によると、すでに導入している地域(山形県酒田地区)や導入準備をしている地域(大阪府八尾市)ほど認知度は高かった。具体的な取り組みをしていない地域(横浜市金沢区)では低い傾向だったが、それでも「全く知らない」層は18.4%にとどまり、今回の南加賀医療圏の54.5%を大きく下回っている。

### ●認知度低いのは年齢層高いから?

院内を含めたフォーミュラリの考え方は、22年度に改訂された、新たな薬学教育モデル・コア・カリキュラムにも盛り込まれている。旧コアカリ時代でも薬学教育の一環でフォーミュラリに触れる大学もあるため、グループは「今回の調査では対象を比較的年齢層の高いとみられる管理薬剤師に絞ったため、さらに認知度が下がった可能性がある」とみている。

今回の調査は、今春同大を卒業した大久保大登氏（はなの木薬局、金沢市）と越田開成氏（国立がん研究センター中央病院）が3月末に福岡市であった日本薬学会年会で発表した。（折口 慎一郎）